

# B 脈位の異常

「不浮不沈」の中取で最も明らかに触れる平脈に対し、軽取（浮取）あるいは重按（沈取）したときに最も顕著な脈象が得られる場合を、それぞれ浮脈・沈脈という。脈波模型で概念的に示したものが図5である。

原則的には、浮は陽脈で沈は陰脈であるから、「陽実（陽邪熾盛）」と「陰虚（陰液不足）」では浮脈が、「陰盛（陰邪内盛）」と「陽虚（陽気不足）」では沈脈が、それぞれ出現しやすい。

## 1. 浮脈（ふみやく）

脈象：軽取即得，重按稍減而不空  
 主病：表証・虚証

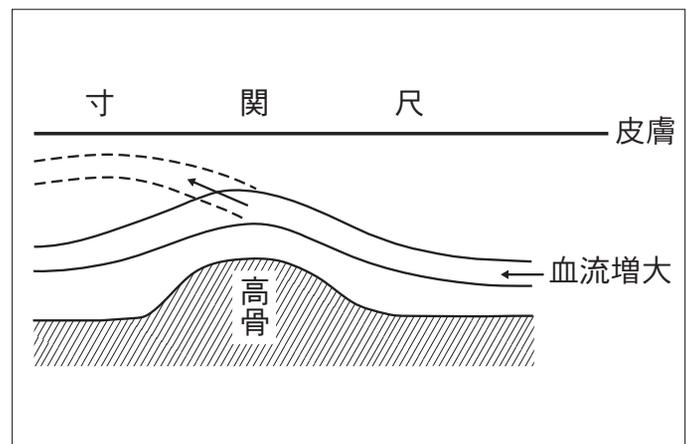
指を軽く置いただけでははっきりと脈を触れ、力を入れるにつれて脈が弱くなるが、中空ではない。

浮脈は以下の2つの病態をあらわす。

### (1) 表証

病邪が肌表にあり、人体の気血がこれに抵抗し外に向かうために浮脈となる。浮脈は寸部あるいは寸関部にあらわれる。

血管壁の緊張や心収縮力の増大などさまざまな要素により血流速度が増し、図6のように血管の寸部・関部を表面に向かって押し上げるため、血管の走行が尺部から関部に向けて上り勾配になっているからであると考察されている。



■ 図6 外感表証の浮脈のメカニズム

	浮取	中取	沈取	推筋按骨
浮脈				
沈脈				
伏脈				

■ 図5 浮脈・沈脈・伏脈の脈波模型